

# 2010年3月期 第2四半期 決算説明会

- 業績の概況
- 経営方針の進捗状況

2009年11月11日  
株式会社キョーリン  
代表取締役社長 山下 正弘

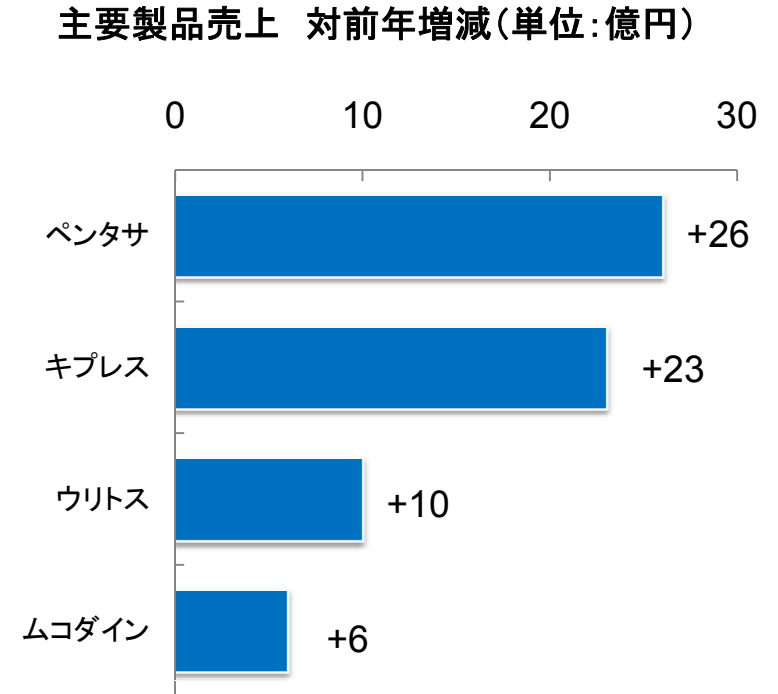


## 2010年3月期第2四半期累計期間 決算概観(連結)

単位:億円	08年9月期	09年9月期	対前年増減
売上高	403	457	+54
営業利益	12	46	+34
経常利益	12	52	+40
純利益	▲16	33	+49

## 2010年3月期第2四半期累計期間 売上高の増減(連結)

単位:億円	08年9月期	09年9月期	対前年増減
売上高合計	403	457	+54
◆新医薬品	330	380	+50
○国内	312	367	+55
○海外	18	13	▲5
◆後発医薬品	29	36	+7
◆ヘルスケア	37	35	▲2
◆その他	6	6	±0



## 売上高増減のポイント

【国内新医薬品】+55億円

【海外新医薬品】▲5億円

【後発医薬品】+7億円

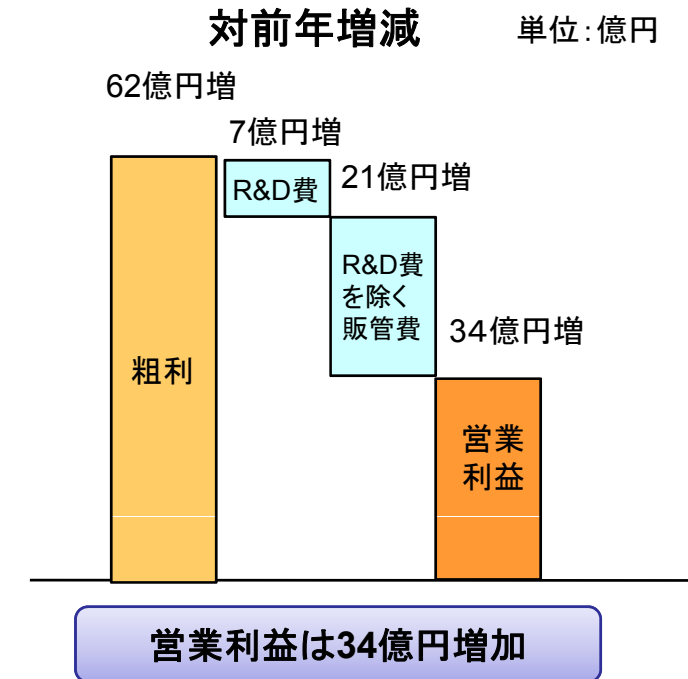
・主要製品が好調に推移

・ガチフロキサシン点眼の売上が減少

・日清キョーリン製薬からの販売移管、昨年度及び今年度の追補品など  
主要製品の売上増加

# 2010年3月期 第2四半期累計期間 損益の概要(連結)

単位:億円	08年9月期	09年9月期	対前年増減
売上高	403	457	+54
売上原価	177	170	▲7
販売費及び一般管理費	213	241	+28
R&D費	50	57	+7
R&D費を除く販管費	163	184	+21
営業利益	12	46	+34
経常利益	12	52	+40
純利益	▲16	33	+49



## ポイント

### ○営業利益は34億円増加

#### ・売上総利益は62億円増加

(売上高が54億円増加し、ペントサ、ウリトスを中心に売上原価率が6.7ポイント改善)

#### ・販売費及び一般管理費は日清キョーリン製薬の統合等により28億円増加

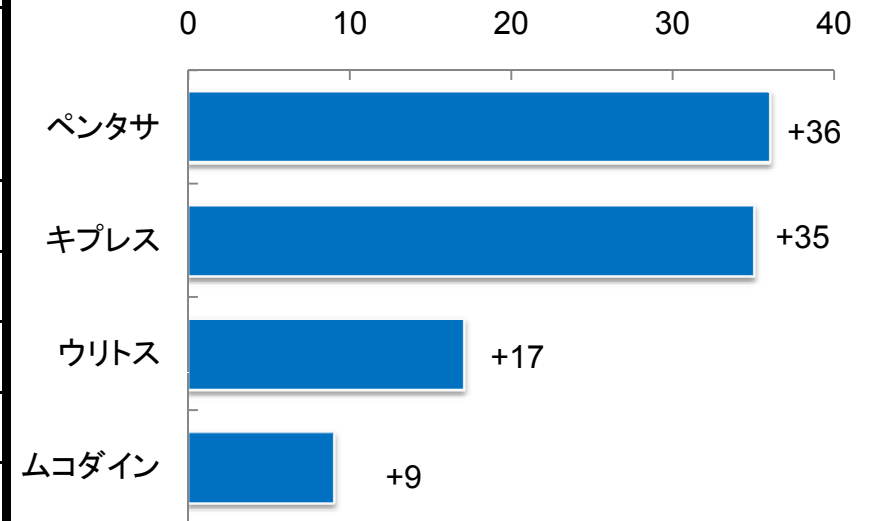
(R&D費は7億円、R&D費を除く販管費は21億円増加)

## 2010年3月期 連結業績予想

単位:億円	2009年3月期(実績)	2010年3月期(予想)	対前年増減
売上高合計	909	995	+86
◆新医薬品	757	821	+64
国内	719	795	+76
海外	38	26	▲12
◆後発医薬品	63	86	+23
◆ヘルスケア	77	76	▲1
◆その他	12	11	▲1
営業利益	90	120	+30
経常利益	92	128	+36
当期純利益	20	81	+61

## 売上高増減のポイント

[国内新医薬品] 主要製品の伸長を見込む 単位:(億円)



## 売上高・営業利益増減のポイント

【売上高】 国内新医薬品 +76億円  
+86億円 海外新医薬品 ▲12億円  
後発医薬品 +23億円

- ・主要製品の伸長を見込む
- ・ガチフロキサシン点眼の売上減、ActivX社の売上減を見込む
- ・日清キョーリン製薬からの販売移管、追補品(08~09年)など主要製品の売上増加を見込む

【営業利益】 原価率は約3ポイント低下  
+30億円

- ・R&D費は105億円から125億円と20億円増加(研究開発の加速化、Neramexaneの導入等)
- ・R&D費を除く販管費率はほぼ横ばいを予想

# 2009年度第2四半期の取組み状況

## 09年度の位置付けと取組み

中期経営計画「キョーリンMIC-'09計画」の目標達成に挑戦

**数値目標: ROE 7%**

1. 新薬事業の強化

2. 日清キョーリン製薬の  
統合効果を最大限に発揮

3. 周辺事業の育成・強化  
キョーリン リメディオ及び  
ドクタープログラム

## 09年度 第2四半期までの取組み

○国内営業の順調な進捗

○導入契約の締結により、  
研究開発パイプラインを  
拡充

○ペンタサ売上の上積み

○ペンタサ自社製造による  
原価率の低下

○MR約70名増員により  
営業力の強化に貢献

○キョーリン リメディオ  
売上原価率が低下し黒字化  
(販売価格の適正化等)

○ドクタープログラム  
事業進展に遅れ

# 1.新薬事業の強化 (1)競争力のある国内営業展開

## FC戦略の推進

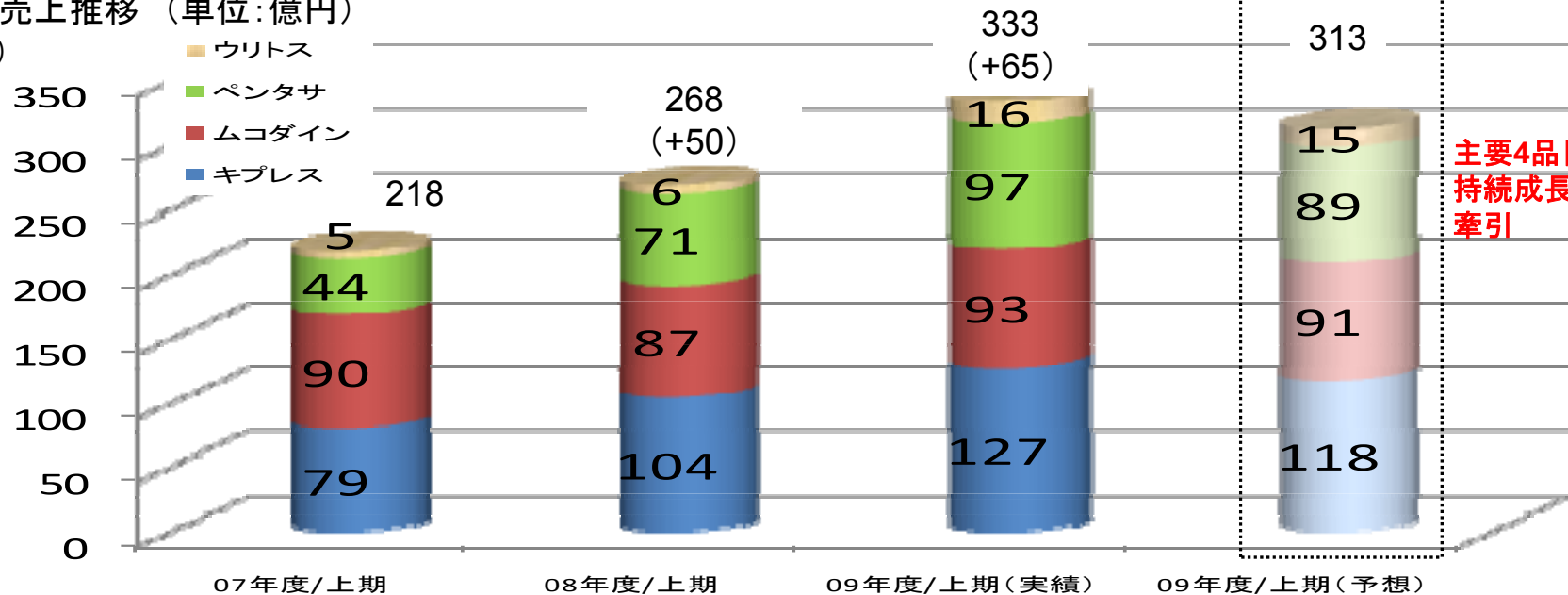
- ◆呼吸器内科、耳鼻科、泌尿器科専門医を中心に約67,000名との関係強化
- ◆国内新医薬品 重点製品への注力による持続成長

### 人と組織のパワーアップ

- ・ 統合による営業力の強化
- ・ チーム制による組織力アップ

### 卸店政策

主要4製品売上推移 (単位:億円)  
(自社販売)



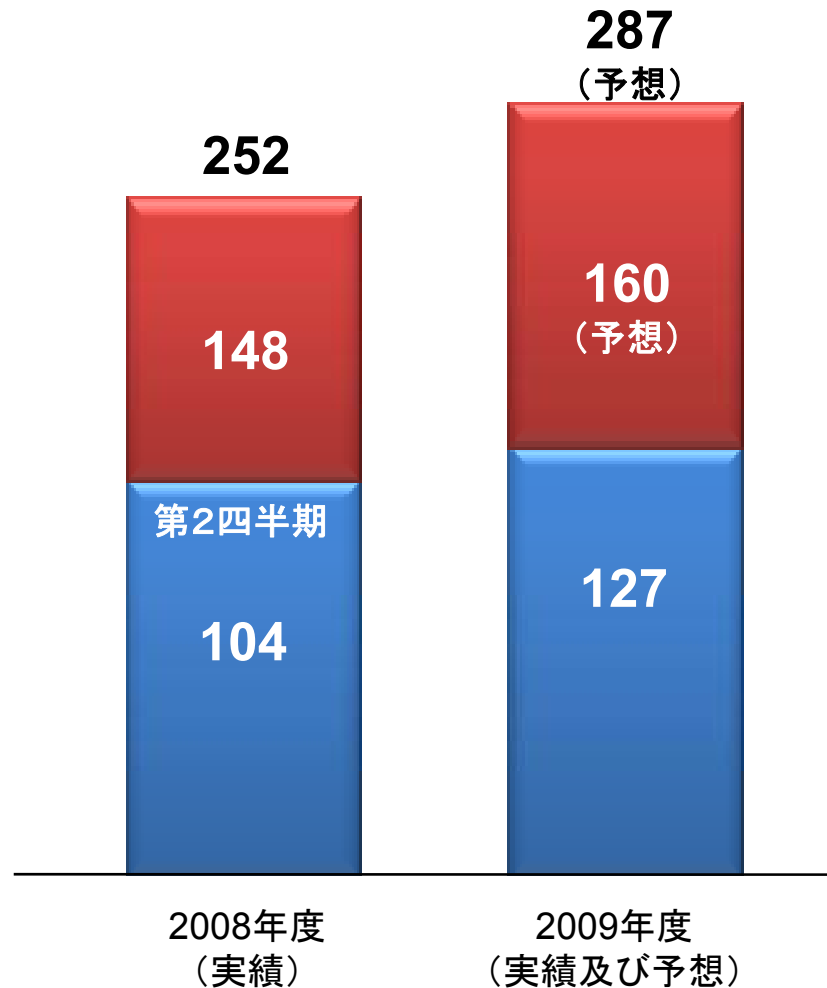
主要4品目で  
持続成長を  
牽引

国内新医薬品売上高 **719億円** (2009年3月実績) ⇒ **795億円** (2010年3月予想)

# 1.新薬事業の強化

## (1)競争力のある国内営業展開：主要製品 キプレスの状況

売上高(単位:億円)



### 2009年度第2四半期の状況

マーケットシェア拡大 *LT拮抗剤 出典:IMS	(08年9月単月)	(09年9月単月)
	26.8%	29.4%
※2010年3月単月 <b>30%</b> を目指す		

#### 売上は順調に推移

- アレルギー性鼻炎での処方約50%拡大
- 細粒4mgが好調に推移

### 2009年度 下期の取組み

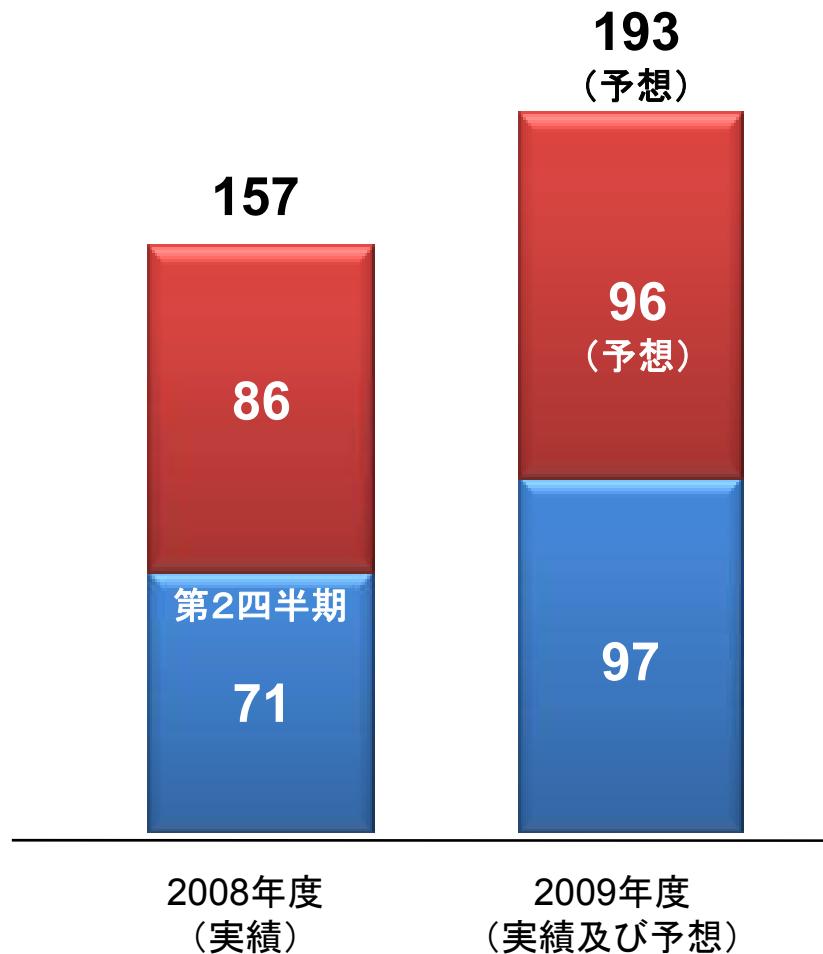
- アレルギー性鼻炎での更なる処方拡大に取り組む



# 1.新薬事業の強化

## (1)競争力のある国内営業展開：主要製品 ペンタサの状況

売上高(単位:億円)



### 2009年度第2四半期の状況

- LCMの積極的な取組みと専門医との関係強化  
・ 剤形追加、新規用法・用量の取得を通して、  
後発薬及び後続薬の参入障壁を築く

小児適応取得	2008年2月
錠500mg発売	2008年10月
用法、用量追加取得	2008年12月

- 自社製造による原価率の低下と利益拡大

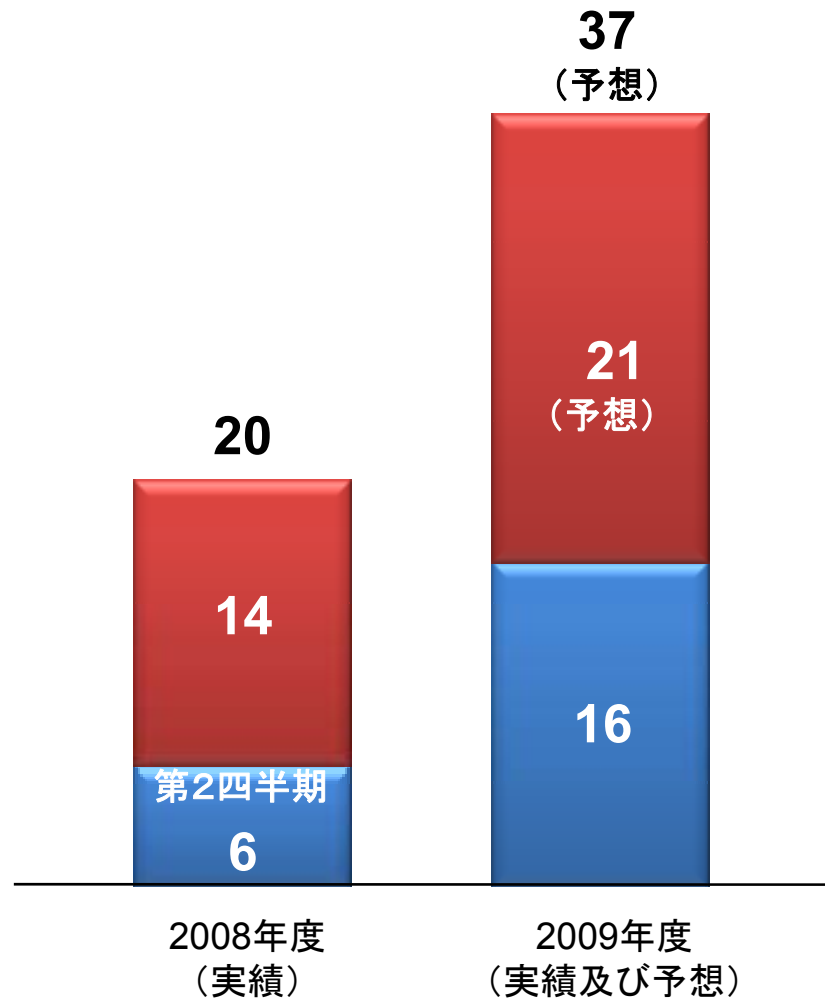
### 2009年度 下期の取組み

- 更なるLCMへの対応を推進

# 1.新薬事業の強化

## (1)競争力のある国内営業展開:主要製品 ウリトスの状況

売上高(単位:億円)



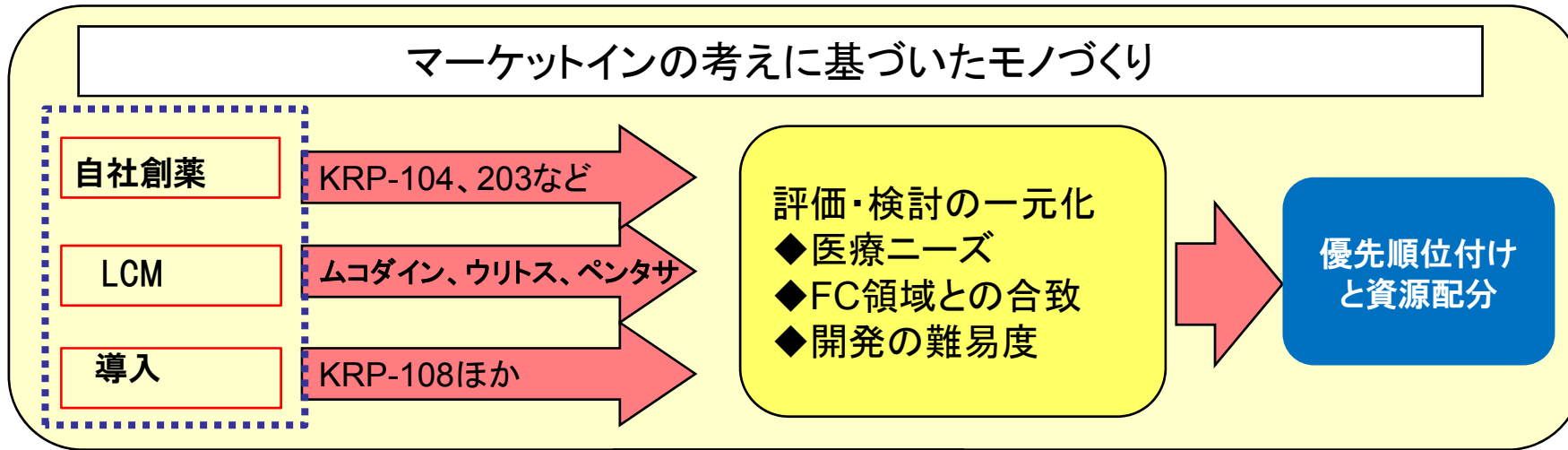
### 2009年度第2四半期の状況

- 潜在市場の掘り起こし(患者さん及び医師の啓発活動)
- ウリトスの特長訴求
  - ・1日2回
  - ・口内乾燥、便秘等の副作用が少ない
  - ・夜間頻尿への効果

### 2009年度 下期の取組み

- 潜在市場の掘り起こし(患者さん及び医師の啓発活動)
- 有用な情報提供を継続的に推進
  - ・用法・用量の変更など
  - \* 高用量で有効性・安全性が確認され、1日最高投与量は変更予定(0.2mg/日→0.4mg/日)
- 今後もLCMを検討

# 1.新薬事業の強化 (2)パイプラインの充実



FC領域			その他
呼吸器内科	耳鼻科	泌尿器科	
KRP-108 (Flutiform) 08年4月導入 (英国SkyePharma) 早期上市に向け集中	<b>Neramexane</b> <b>09年11月導入契約</b> <b>(独 Merz社)</b>	ウリスLCM	ペンタサLCM
ムコダインLCM			

※LCM: ライフサイクルマネジメント

# 1.新薬事業の強化

## (2)パイプラインの充実 ネラメキサンの導入契約締結

### 耳鳴治療薬『Neramexane(ネラメキサン)』

#### ■09年11月5日 独 Merz(メルツ)社と国内ライセンス契約締結

- 日本国内における独占的開発権・製造権・販売権を取得
- 契約一時金及びマイルストーンペイメントの支払、発売後;売上の一定比率のロイヤルティ支払

#### ネラメキサン導入の狙い

- 持続成長へ向けFC領域におけるパイプラインを充実
- 医療ニーズ(アンメットメディカルニーズ)への対応

#### ■耳鼻科領域でのプレゼンス向上を目指す

## 2. 日清キョーリン製薬との統合効果を最大限に発揮

### 09年度は統合効果が年間フル寄与

#### 具体的な統合効果(第2四半期)

##### 売上の増加

- ・ペンタサ売上の上積み
- ・承継品により後発医薬品売上は増加

##### 原価率の低下

- ・ペンタサ自社製造に伴う原価率低下

##### 営業力の強化

###### キョーリン製薬

- ・MR約50名増員による営業活性化
- \* 重点商品のコール数は拡大し、重点製品の売上は順調に伸長

###### キョーリン リメディオ

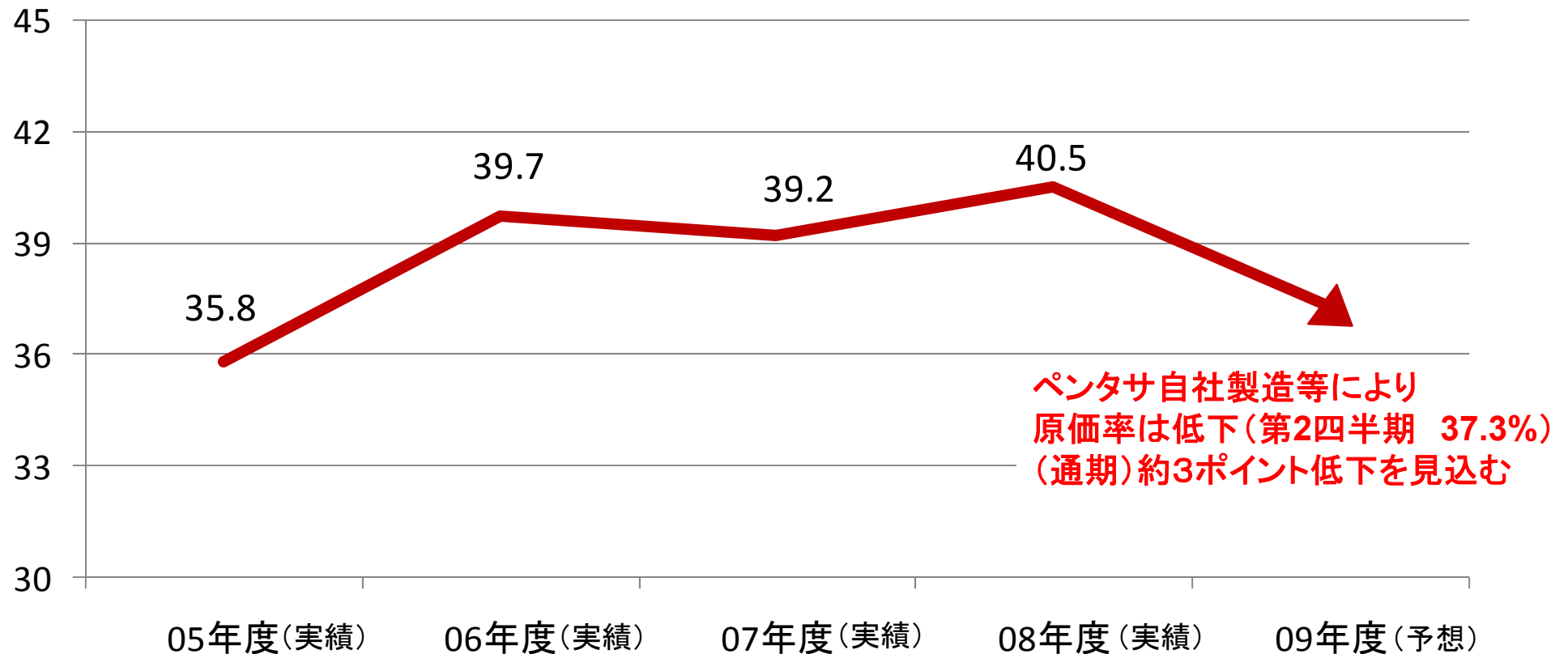
- ・MR約20名増員

## 2.日清キョーリン製薬との統合効果を最大限に発揮



### 売上高原価率(連結)の推移

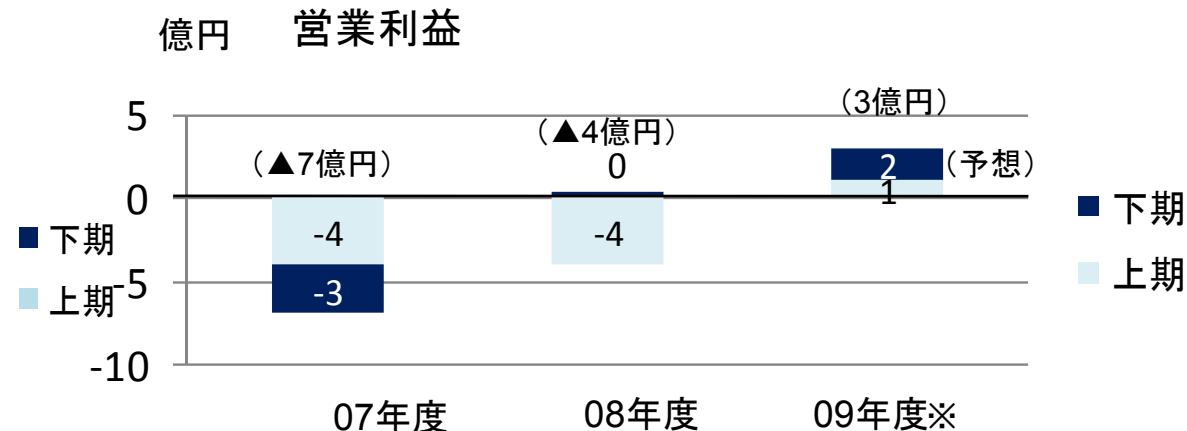
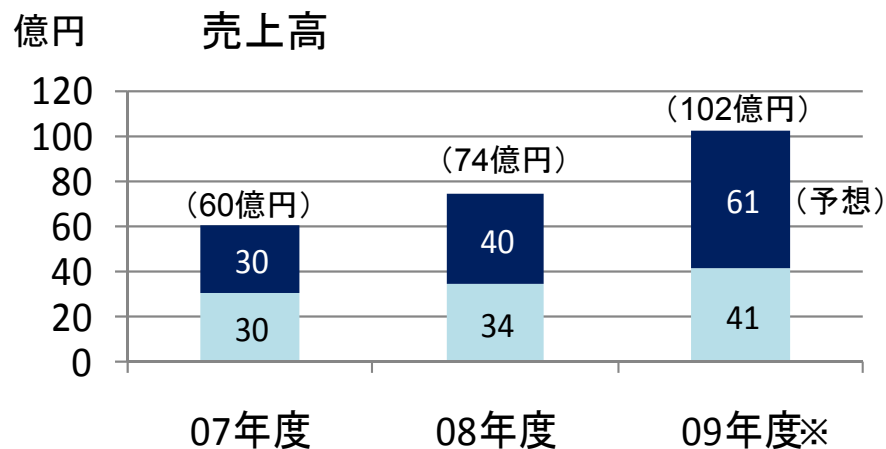
単位:%



# 3. 周辺事業の育成・強化

## (1) キョーリン リメディオの地力養成

2010年3月期 経営方針関連



※決算期を1月31日から3月31日へ変更(2010年3月期は、14ヶ月が対象期間)

### キョーリン リメディオ 09年度第2四半期の状況

**【売上: 34億円⇒41億円(7億円増)】**

- ・日清キョーリン製薬からの承継品、追補品、受託製造の売上拡大

**【営業利益: ▲4億円⇒1億円】**

- ・販売価格の適正化などによる売上原価率低減

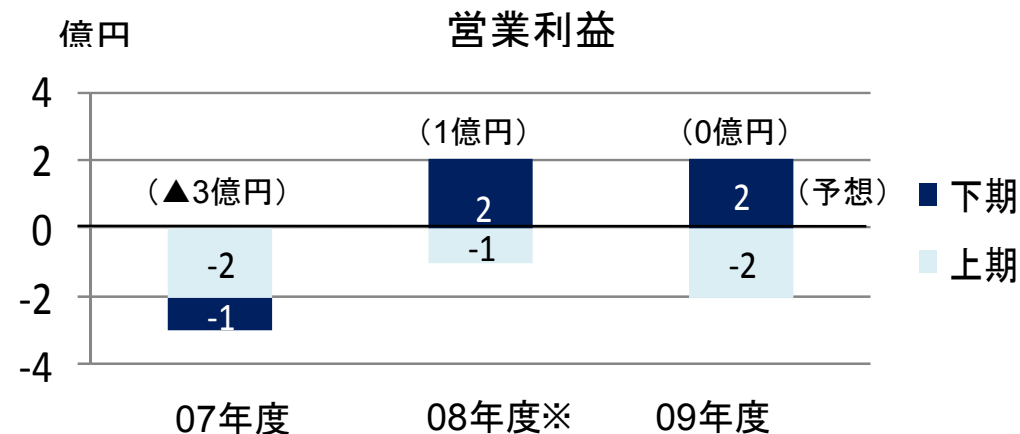
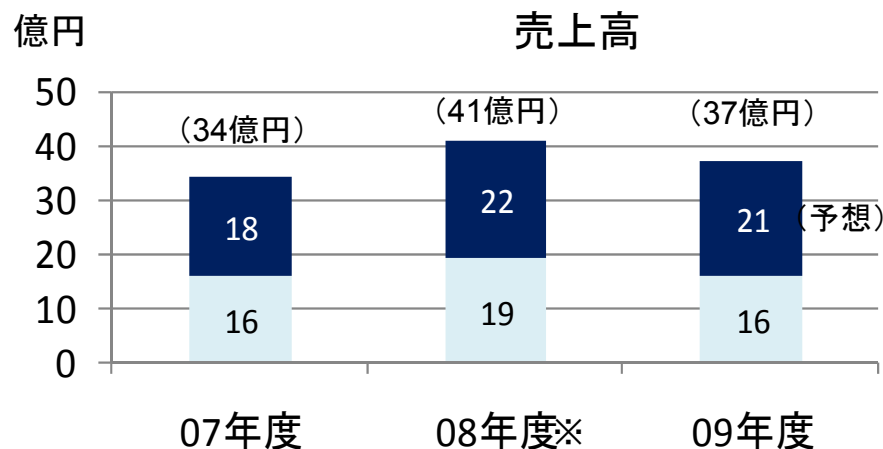
**09年度の目標達成を目指す(売上102億円、営業利益3億円)**

- ・新たな追補品 11月 4成分9品目上市予定

# 3. 周辺事業の育成・強化

## (2) ドクタープログラムの地力養成

2010年3月期 経営方針関連



※決算期を1月31日から3月31日へ変更(2009年3月期は、14ヶ月が対象期間)

### ドクタープログラム 09年度第2四半期の状況

**【売上: 19億円⇒16億円(3億円減)】**

- ・ 需要低迷及び販促戦略の転換の影響

**【営業利益: ▲1億円⇒▲2億円】**

- ・ 売上減少による利益減

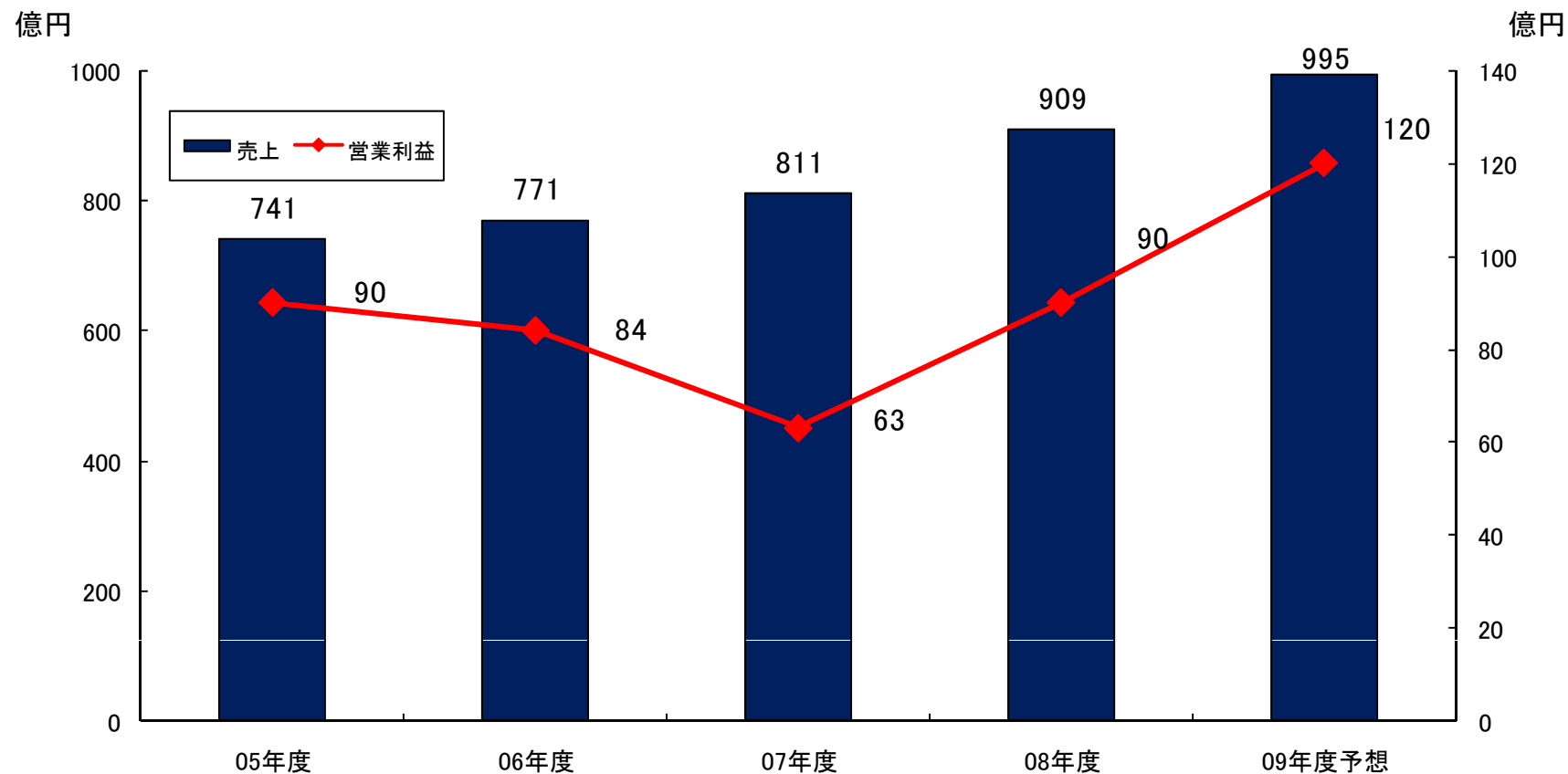
09年度は、売上達成と経費コントロールにより、通期での収支改善を目指す



# 「キョーリンMIC-'09計画」の目標達成へ

新薬事業の強化、日清キョーリン製薬との統合効果、周辺事業の黒字化により、  
営業利益120億円、当期純利益81億円(ROE7%以上)を目指します

年間配当の予想:45円(第2四半期末10円、期末35円)



# 2010年3月期 第2四半期 決算説明会

～研究開発パイプラインの充実に向けて

○パイプラインの状況

2009年11月11日

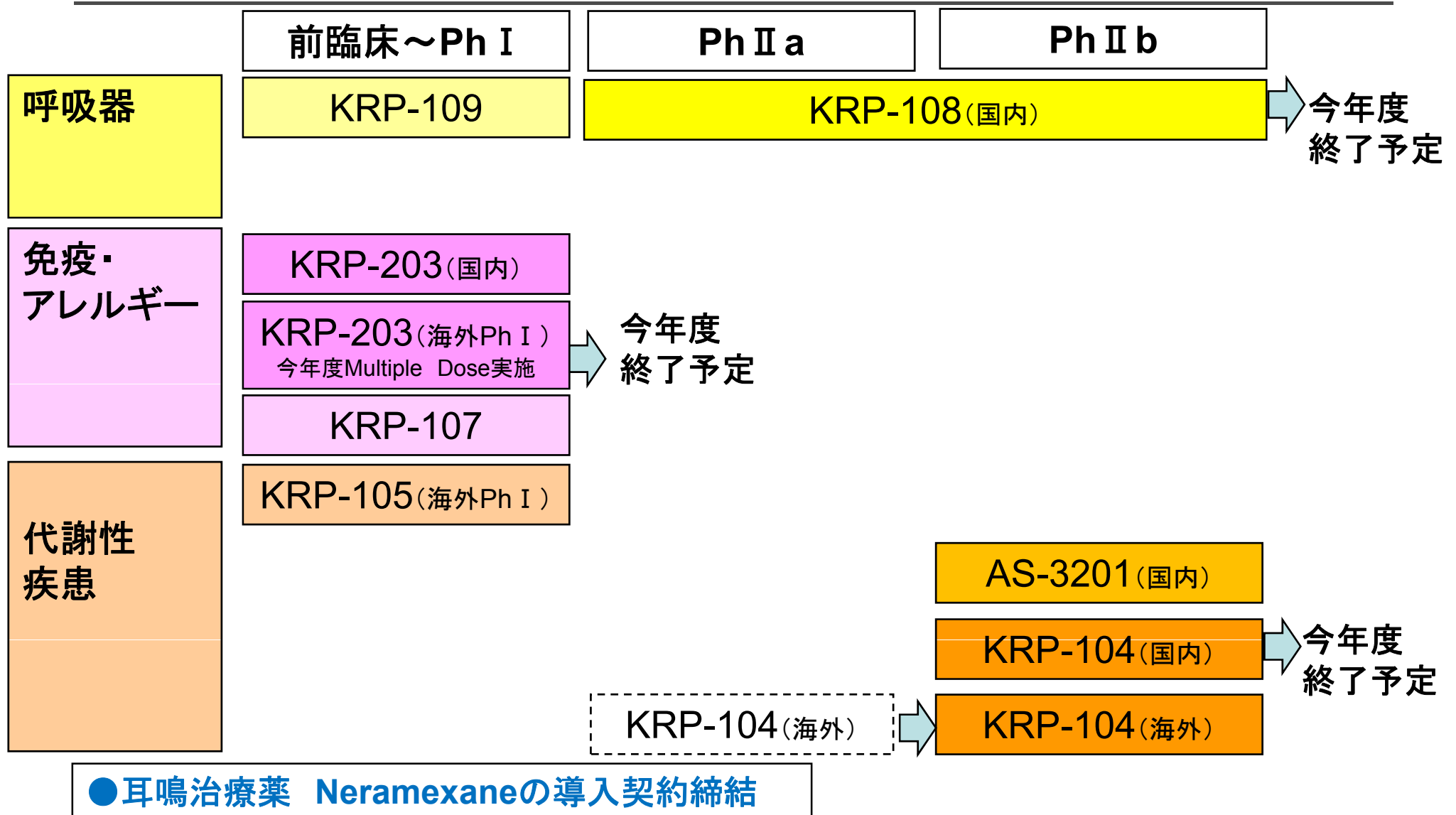
株式会社キョーリン 取締役

杏林製薬株式会社

代表取締役社長 平井 敬二



# 新薬パイプライン一覧と進捗



※KRP-101、KRP-204については開発中止とし、開発品一覧から削除

# 糖尿病治療薬KRP-104の状況

## 海外・国内でPh II b臨床試験を実施中 製品価値の見極めと提携先を積極的に探索

### これまでの経緯

- POCを確認
  - 海外Ph II a  
主要評価項目でHbA1c低下率(12週後)は60mg (BID)、120mg (QD) 投与群でプラセボ群に比較して有意に低下し、両投与群間の効果に差は認められなかった
  - 国内Ph II a  
海外よりも低用量30mg (BID)、10mg (BID) においてHbA1c低下率はプラセボに比較して有意に低下
- ヒトにおいて4週間以上の投与で安全性を確認
- サル52週安全性試験で良好なプロファイルを確認
- これらの成績を踏まえ、Ph II bを進め、さらに有効性、薬効プロファイル、臨床推奨用量、安全性などを確認していく。

### 現在の開発状況

- ❖ 国内: Ph II b
  - ・2009年度: 結果確認予定
- ❖ 海外: Ph II b
  - ・2009年11月: 開始
  - ・2010年度: 結果確認予定

### Ph II b 試験概略

- ❖ 国内
  - ・2型糖尿病患者を対象とした臨床推奨用量の検証
  - ・1日2回投与、12週間評価
- ❖ 海外
  - ・メトホルミンでコントロール不良な2型糖尿病患者で臨床推奨用量の検証
  - ・1日1回投与、24週間評価

# 気管支喘息治療薬KRP-108の状況

## Ph II b臨床試験を実施中

早期の承認を目指しリソースを集中化



最強ICS、最速LABA、最適デバイスの  
ベストな組み合わせ

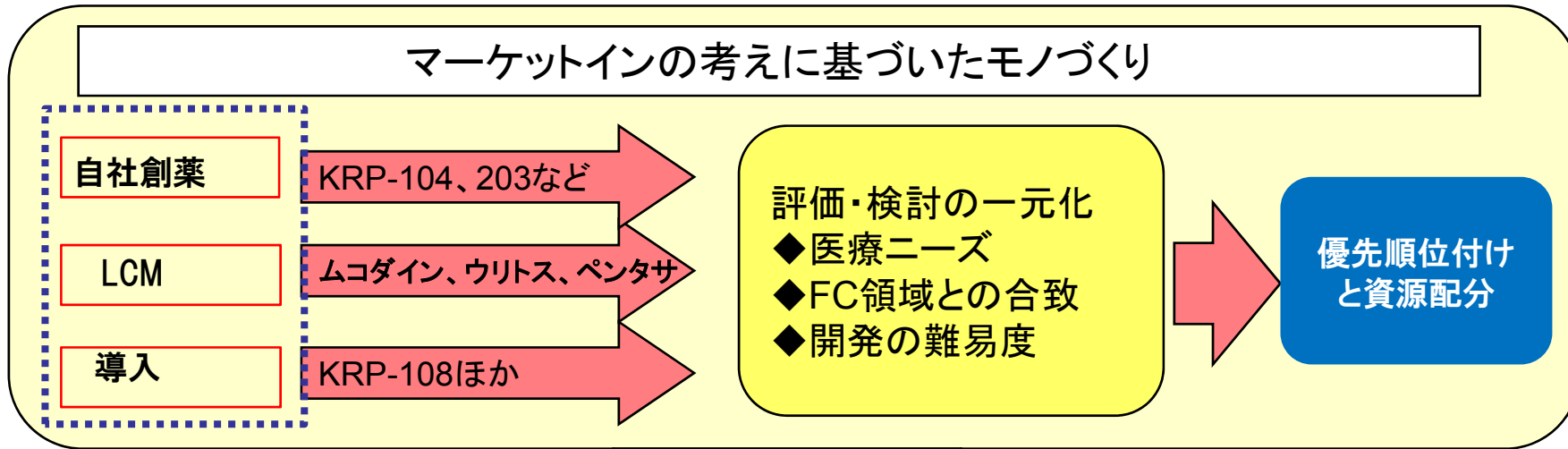
- 新医療用配合剤
  - ・ ICS：プロピオン酸フルチカゾン
  - ・ LABA：フマル酸ホルモテロール
  - ・ デバイス：定量加圧式噴霧器(pMDI)

### 開発状況

- ❖ 国内：Ph II b試験実施中
  - ・ 2009年度：終了予定
  - ・ 2012年度：承認申請を目指す
- ❖ 海外：米国 <Abbott/SkyePharma>
  - ・ 2009年3月：NDA申請
- 欧州 <Mundipharma>
  - ・ 第Ⅲ相試験実施中

ICS：吸入ステロイド、LABA：長時間作動型吸入β2刺激薬

# 新薬事業の強化 パイプラインの充実



FC領域			その他
呼吸器内科	耳鼻科	泌尿器科	
KRP-108 (Flutiform) 08年4月導入 (英国SkyePharma) 早期上市に向け集中	<b>Neramexane</b> <b>09年11月導入契約</b> <b>(独 Merz社)</b>	ウリトスLCM	ペンタサLCM
ムコダインLCM			

※LCM: ライフサイクルマネジメント

# 耳鳴治療薬：ネラメキサンについて

■FC領域における製品ポートフォリオの強化を目指す

■アンメットメディカルニーズへの対応

○期待される適応症：

・中等度から重症の耳鳴患者における、耳鳴に伴う心理的苦痛、生活障害の改善

■ユニークな作用機序

①NMDA受容体拮抗作用 ②ニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用

・2つの薬理作用により内耳から神経及び大脳皮質に至る聴覚路における過剰な興奮等を抑制し、耳鳴に伴う心理的苦痛、生活障害を改善することが期待される

○海外の開発状況

Merz社

欧米でPhⅢ臨床試験実施中

米国：日本人でのPhⅠ臨床試験実施中

※日本国内では次年度以降PhⅡ臨床試験入りをを目指す

# 開発品一覧①(09年11月10日現在)

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
	(ガルデルマ社 発売中)	塩酸アモロルフィン ネイルラッカー	爪白癬治療剤	自社	日本初のネイルラッカー製剤	
Ph II (05年3月)	(イーザイ Ph III)	AS-3201 (錠)	糖尿病合併症 治療剤	大日本 住友製薬	アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞 内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病性神経障害を 改善する	・大日本住友製薬と 共同開発(国内のみ) ・Ph II b(07年9月)開始
Ph II (08年2月)	Ph II (07年9月)	KRP-104	糖尿病治療剤	自社	DPPIV阻害剤。インスリン分泌ホルモンの分解を抑え ることにより血糖低下作用を示す。副作用の発現が 少ない糖尿病治療が期待される	※海外Ph II b開始 (09年11月) ・国内Ph II b開始 (09年3月)
Ph II (08年8月)	(米国:アボット 申請中 欧州他: ムンディファーマ Ph III)	KRP-108	気管支喘息 治療剤	スカイ ファーマ社	ステロイド及び長時間作動型β作動薬の配合剤で利便 性やコンプライアンスに優れる	スカイファーマ社と ライセンス契約(08年4月)

※: 前回(10年3月期第1四半期)からの変更点を示す

※: KRP-101及びKRP-204については開発戦略の観点から開発中止とし、開発品一覧から削除



# 開発品一覧②(09年11月10日現在)

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
POCプロジェクト(前臨床~Ph I)						
※: 前回(10年3月期第1四半期)からの変更点を示す						
	Ph I (07年7月)	KRP-203	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調整剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ノバルティス社と ライセンス契約(06年2月)
	Ph I (07年10月)	KRP-105	脂質代謝改善	自社	選択性の高いPPAR $\alpha$ アゴニスト。KRP-101よりもさらにPPAR $\alpha$ 受容体に対して選択性が高い。脂質改善作用に加え、アディポネクチンの増加、レプチンの減少、体重増加抑制作用などが動物実験で確認されており、新たな脂質改善剤として期待される	
前臨床		KRP-107	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	S1P1受容体選択的アゴニスト。	
前臨床		KRP-109	急性肺障害	自社	肺移行性の高い好中球エラスターゼ阻害剤。	

## 導入品

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
臨床試験 準備中	Ph III (Merz社)	※Neramexane	耳鳴	Merz社	NMDA受容体拮抗作用及びニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	メルツ社とライセンス契約 (09年11月)

# 開発品一覧③(09年11月10日現在)

導出品の状況

※: 前回(10年3月期第1四半期)からの変更点を示す

製品名・ 開発コード	導出先・ 共同研究先	開発段階	薬効	起源	備考
アルファガン/ アルファガンP	千寿製薬	国内PhⅢ (07年7月)	緑内障治療薬	米国 アラガン社	・アラガン社より導入 (ガチフロキサシン点眼液のクロスライセンス) ・千寿製薬に導出(04年5月)
ケタス	米国 メディシノバ社	海外PhⅡ (05年8月)	脳血管障害治療薬	自社	・多発性硬化症の適応での日本、中国、 韓国、台湾を除く全世界における独占的 な開発、製造販売権を供与(04年10月) 08年4月 PhⅡの結果を公表
KCA-757	米国 メディシノバ社	海外PhⅢ (気管支喘息: 06年11月) 海外PhⅡ/Ⅲ (間質性膀胱炎: 05年5月)	気管支喘息治療薬 間質性膀胱炎治療薬	自社	・日本、中国、韓国、台湾を除く全世界に おける独占的な開発、販売権を供与 ・間質性膀胱炎:07年1月に結果を公表、 開発を中断 ・気管支喘息:海外PhⅢ一旦停止
KRP-203	スイス ノバルティス社	海外PhⅠ (07年7月)	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	・移植用の免疫調整剤として、全世界の開発及び 販売権、自己免疫疾患及びその他の疾患用剤と して、日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の 開発及び販売権(なお、炎症性腸疾患用剤と しては、全世界の権利を留保している)を供与 (06年2月)

# 2010年3月期第2四半期 決算概要 財務諸表の概況

# 損益計算書の概要：連結①

(単位:百万円)

	09年3月期 第2四半期		10年3月期 第2四半期累計期間			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	40,261	100.0%	45,714	100.0%	13.5%	5,453
新医薬品	33,046	82.1%	38,011	83.1%	15.0%	4,965
国内	31,239	77.6%	36,733	80.4%	17.6%	5,493
海外	1,806	4.5%	1,278	2.8%	▲29.2%	▲528
後発医薬品	2,929	7.3%	3,584	7.8%	22.3%	654
ヘルスケア	3,684	9.2%	3,469	7.6%	▲5.8%	▲214
その他	600	1.5%	649	1.4%	8.1%	48

## <適応範囲及び持分法の適用について>

連結子会社7社：杏林製薬(株) (株)杏文堂

Kyorin USA,Inc. Kyorin Europe GmbH

ActivX Biosciences,Inc.

キョーリンリメディオ(株)

ドクタープログラム(株)

持分法適用会社1社：日本理化学薬品(株)

## <当期のポイント>

## 対前年

- 売上高 45,714百万円 (+5,453百万円)
- 国内新医薬品 36,733百万円 (+5,493百万円)

前期実績 当期実績(億円)

- ・キプレス 104 → 127 (+23)
- ・ムコダイン 87 → 93 (+6)
- ・ペンタサ 71 → 97 (+26)
- ・ウリトス 6 → 16 (+10)

- 海外新医薬品 1,278百万円 (▲528百万円)

- ・ガチフロキサシン 14 → 11 (▲3)

- 後発医薬品 3,584百万円 (+654百万円)

\* 承継品、重点商品等による売上増加

- ヘルスケア 3,469百万円 (▲214百万円)

- ・ミルトン 9 → 10 (+1)

- ・ドクタープログラム社 19 → 16 (▲3)

- その他 649百万円 (+48百万円)

# 損益計算書の概要：連結－②

(単位：百万円)

	09年3月期 第2四半期		10年3月期 第2四半期累計期間			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	40,261	100.0%	45,714	100.0%	13.5%	5,453
売上原価	17,718	44.0%	17,035	37.3%	▲3.9%	▲683
売上総利益	22,542	56.0%	28,679	62.7%	27.2%	6,137
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	21,298 (4,968)	52.9% 12.3%	24,109 (5,670)	52.7% 12.4%	13.2% (14.1%)	2,811 (702)
営業利益	1,243	3.1%	4,569	10.0%	267.4%	3,325
営業外収益	418	1.0%	671	1.5%	60.7%	253
営業外費用	486	1.2%	69	0.2%	▲85.8%	▲416
経常利益	1,175	2.9%	5,172	11.3%	339.9%	3,996
特別利益	92	0.2%	9	0.0%	▲89.6%	▲83
特別損失	3,116	7.7%	50	0.1%	▲98.4%	▲3,066
税金等調整前 四半期純利益	▲1,847	▲4.6%	5,131	11.2%	—	6,979
法人税・住民税 及び事業税	1,353	3.4%	2,129	4.6%	57.3%	775
法人税等調整額	▲1,594	▲4.0%	▲290	▲0.6%	—	1,303
四半期純利益	▲1,606	▲4.0%	3,293	7.2%	—	4,900

## <当期のポイント>

◆原価率：前年比 6.7ポイント低下  
(44.0%→37.3%)

\* 低下要因：ペンタサ自社製造等に伴い低下

◆研究開発費率：前年比 0.1ポイント上昇  
(12.3%→12.4%)

\* 50億円→57億円 (7億円増加)  
増加要因：日清キョーリン製薬の統合

◆販管費率(除R&D費)：前年比0.3ポイント低下  
(40.6%→40.3%)

\* 163億円→184億円 (21億円増加)  
日清キョーリン製薬の統合などにより販管費 (除R&D費) は増加したものの、売上増加により販管費率 (除R&D費) は0.3ポイント低下

■営業利益 4,569百万円  
(+3,325百万円)

\* 営業利益率は10.0%と6.9ポイント上昇

■四半期純利益 3,293百万円  
(+4,900百万円)

■配当 (第2四半期末) 10円00銭

# 貸借対照表の概要：連結

(単位：百万円)

	09年3月期		10年3月期第2四半期累計期間		
	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
<b>流動資産</b>	75,140	60.3%	79,729	62.4%	4,589
現金および預金	12,223		16,682		
受取手形及び売掛金	35,615		32,054		
有価証券	3,500		4,954		
棚卸資産	18,187		19,551		
その他流動資産	5,613		6,487		
<b>固定資産</b>	49,412	39.7%	47,999	37.6%	▲1,412
有形固定資産	17,122		16,650		
無形固定資産	1,632		1,306		
投資その他	30,657		30,041		
<b>資産合計</b>	124,552	100.0%	127,728	100.0%	3,176
<b>流動負債</b>	21,715	17.4%	21,512	16.8%	▲202
支払手形及び買掛金	8,258		8,591		
その他流動負債	13,456		12,921		
<b>固定負債</b>	6,336	5.1%	6,191	4.9%	▲144
<b>負債合計</b>	28,051	22.5%	27,704	21.7%	▲347
<b>株主資本</b>	97,513	78.3%	100,116	78.4%	2,602
評価・換算差額等	▲1,012	▲0.8%	▲91	▲0.1%	920
<b>純資産合計</b>	96,501	77.5%	100,024	78.3%	3,523
<b>負債及び純資産合計</b>	124,552	100.0%	127,728	100.0%	3,176

## <当期のポイント>

### ■ 流動資産： 4,589百万円増

- ・現金、預金の増加 (4,458百万円増)
- ・受取手形、売掛金の減少 (3,560百万円減)
- ・有価証券の増加 (1,453百万円増)
- ・棚卸資産の増加 (1,363百万円増)
- ・その他流動資産の増加 (873百万円増)

### ■ 固定資産： 1,412百万円減

- ・有形固定資産の減少 (471百万円減)
- ・無形固定資産の減少 (325百万円減)
- ・投資その他の減少 (616百万円減)

### ■ 流動負債： 202百万円減

- ・支払手形及び買掛金の増加 (332百万円増)
- ・その他流動負債の減少 (535百万円減)

### ■ 固定負債： 144百万円減

# 研究開発費・設備投資・減価償却費の状況<連結>第2四半期

(単位:百万円)

	07年3月期 第2四半期	08年3月期 第2四半期	09年3月期 第2四半期	10年3月期第2四半期		09年3月期	10年3月期 (予想)	10年3月期 (当初予想)
				実績	増減比			
研究開発費	3,982	5,676	4,968	5,670	14.1%	10,531	12,500	11,600
設備投資 (計上ベース)	1,223	1,451	1,115	709	▲36.4%	1,612	1,700	2,600
減価償却費	2,304	2,214	2,028	1,362	▲32.8%	3,799	2,900	3,000

## <設備投資の状況(実績/計画)>

	09年3月期	10年3月期	
	実績	第2四半期実績	通期計画
(実績)			
工場設備	5億円	4億円	
管理・販売設備	7億円	1億円	
研究用設備	4億円	2億円	
(実績/計画)			
工場設備			8億円
管理・販売設備			5億円
研究用設備			4億円

# 主要製品売上の状況：第2四半期

(単位:億円)

	07年3月期 第2四半期	08年3月期 第2四半期	09年3月期 第2四半期	10年3月期 第2四半期		09年3月期	10年3月期 (修正予想)	10年3月期 (当初予想)	
				実績	前 同 比				
国内新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	69	79	104	127	22.5%	252	287	274
	ムコダイン (去痰剤)	89	90	87	93	7.2%	206	215	215
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	40	44	71	97	37.6%	157	193	186
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害治療剤)	29	28	26	23	▲9.8%	50	47	50
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	—	5	6	16	142.8%	20	37	37
	アプレース (抗潰瘍剤)	10	9	8	7	▲5.7%	15	14	15
	ロカルトロール (骨粗鬆症治療剤)	10	9	8	7	▲9.1%	15	14	14
海外新医薬品	海外売上合計	22	25	18	13	▲29.2%	38	26	27
	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ 含む)	18	16	14	11	▲18.0%	25	22	23
	海外売上比率	6.3%	6.4%	4.5%	2.8%	—	4.1%	2.6%	2.8%
ヘルスケア	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	10	10	9	10	5.0%	18	20	20



# 主な業績項目の推移：連結

(単位:百万円)

	08年3月期 第2四半期	09年3月期 第2四半期	10年3月期 第2四半期	09年3月期	10年3月期 (予想)	10年3月期 (当初予想)
売上高 (海外売上高)	39,363 (2,518)	40,261 (1,835)	45,714 (1,305)	90,889 (3,830)	99,500 (2,600)	96,400 (2,700)
売上原価 (売上原価率)%	14,701 (37.3%)	17,718 (44.0%)	17,035 (37.3%)	36,791 (40.5%)	—	—
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	21,873 (55.6%)	21,298 (52.9%)	24,109 (52.7%)	45,146 (49.7%)	—	—
うち研究開発費 (研究開発费率)%	5,676 (14.4%)	4,968 (12.3%)	5,670 (12.4%)	10,531 (11.6%)	12,500 (12.6%)	11,600 (12.0%)
営業利益 (営業利益率)%	2,788 (7.1%)	1,243 (3.1%)	4,569 (10.0%)	8,952 (9.8%)	12,000 (12.1%)	11,500 (11.9%)
経常利益 (経常利益率)%	3,118 (7.9%)	1,175 (2.9%)	5,172 (11.3%)	9,208 (10.1%)	12,800 (12.9%)	12,300 (12.8%)
四半期(当期)純利益 (四半期(当期)純利益率)%	953 (2.4%)	▲1,606 (▲4.0%)	3,293 (7.2%)	2,037 (2.2%)	8,100 (8.1%)	7,300 (7.6%)
一株当たり当期利益(円)	12.74円	▲21.48円	44.05円	27.24円	108.35円	97.64円
資本金	700	700	700	700		
総資産	121,776	123,299	127,728	124,552		
純資産	97,427	94,304	100,024	96,501		
一株当たり純資産(円)	1,301.82円	1,260.93円	1,338.01円	1,290.67円		
自己資本利益率%	1.0%	▲1.7%	3.3%	2.1%		
自己資本比率%	80.0%	76.5%	78.3%	77.5%		
人員(人)	2,003人	2,059人	2,262人	2,247人		
設備投資	1,451	1,115	709	1,612	1,700	2,600
減価償却費	2,214	2,028	1,362	3,799	2,900	3,000

# 損益計算書の概要：杏林製薬一①

(単位：百万円)

	09年3月期 第2四半期		10年3月期 第2四半期累計期間			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	34,425	100.0%	39,545	100.0%	14.9%	5,120
新医薬品	32,998	95.9%	37,998	96.1%	15.2%	5,000
国内	31,239	90.8%	36,733	92.9%	17.6%	5,493
海外	1,758	5.1%	1,264	3.2%	▲28.1%	▲493
後発医薬品	146	0.4%	210	0.5%	44.1%	64
ヘルスケア	1,281	3.7%	1,337	3.4%	4.4%	56

## <当期のポイント>

■ 売上高	39,545百万円	(+ 5,120百万円)
● 国内新医薬品	36,733百万円	(+ 5,493百万円)
	前期実績	当期実績 (億円)
・キプレス	104	→ 127 (+23)
・ムコダイン	87	→ 93 (+6)
・ペンタサ	71	→ 97 (+26)
・ウリトス	6	→ 16 (+10)
● 海外新医薬品	1,264百万円	(▲ 493百万円)
・ガチフロキサシン	14	→ 11 (▲3)
● 後発医薬品	210百万円	(+ 64百万円)
● ヘルスケア	1,337百万円	(+ 56百万円)
・ミルトン	9	→ 10 (+1)

# 損益計算書の概要：杏林製薬一②

(単位：百万円)

	09年3月期 第2四半期		10年3月期 第2四半期累計期間			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	34,425	100.0%	39,545	100.0%	14.9%	5,120
売上原価	14,096	40.9%	13,183	33.3%	▲6.5%	▲912
売上総利益	20,328	59.1%	26,361	66.7%	29.7%	6,033
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	18,642 (4,508)	54.2% 13.1%	21,603 (5,388)	54.6% 13.6%	15.9% (19.5%)	2,961 (880)
営業利益	1,685	4.9%	4,757	12.0%	182.2%	3,072
営業外収益	456	1.3%	949	2.4%	107.8%	492
営業外費用	16	0.0%	37	0.1%	126.8%	21
経常利益	2,125	6.2%	5,669	14.3%	166.7%	3,543
特別利益	76	0.2%	0	0.0%	▲99.3%	▲75
特別損失	2,646	7.7%	25	0.1%	▲99.0%	▲2,620
税引前 四半期純利益	▲443	▲1.3%	5,644	14.3%	—	6,088
法人税・住民税 及び事業税	1,257	3.7%	2,118	5.4%	68.5%	861
法人税等調整額	▲1,421	▲4.1%	▲290	▲0.7%	—	1,130
四半期純利益	▲280	▲0.8%	3,816	9.6%	—	4,096

## <当期のポイント>

◆原価率：前年比 7.6ポイント低下  
(40.9%→33.3%)

\* 低下要因：ペンタサ自社製造等に伴い低下

◆研究開発費率：前年比 0.5ポイント上昇  
(13.1%→13.6%)

\* 45億円→54億円 (9億円増加)  
増加要因：日清キョーリン製薬の統合

◆販管費率(除R&D費)：前年比0.1ポイント減少  
(41.1%→41.0%)

\* 141億円→162億円 (21億円増加)  
日清キョーリン製薬の統合などにより  
販管費(除R&D費)は増加したものの、売上増加により  
販管費率(除R&D費)は0.1ポイント低下

■ 営業利益 4,757百万円  
(+3,072百万円)

\* 営業利益率は12.0%と7.1ポイント上昇

■ 四半期純利益 3,816百万円  
(+4,096百万円)

# 貸借対照表の概要：杏林製薬

(単位:百万円)

	09年3月期		10年3月期第2四半期累計期間		
	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
<b>流動資産</b>	<b>64,822</b>	<b>59.7%</b>	<b>67,755</b>	<b>61.2%</b>	<b>2,932</b>
現金および預金	8,615		12,055		
売掛金	32,018		28,446		
有価証券	3,437		4,891		
棚卸資産	15,684		17,131		
その他流動資産	5,066		5,229		
<b>固定資産</b>	<b>43,699</b>	<b>40.3%</b>	<b>42,913</b>	<b>38.8%</b>	<b>▲785</b>
有形固定資産	13,789		13,473		
無形固定資産	486		380		
投資その他	29,423		29,059		
<b>資産合計</b>	<b>108,522</b>	<b>100.0%</b>	<b>110,669</b>	<b>100.0%</b>	<b>2,147</b>
<b>流動負債</b>	<b>14,593</b>	<b>13.5%</b>	<b>14,759</b>	<b>13.3%</b>	<b>165</b>
支払手形及び買掛金	5,423		5,623		
その他流動負債	9,170		9,136		
<b>固定負債</b>	<b>5,457</b>	<b>5.0%</b>	<b>5,442</b>	<b>4.9%</b>	<b>▲14</b>
<b>負債合計</b>	<b>20,051</b>	<b>18.5%</b>	<b>20,202</b>	<b>18.3%</b>	<b>151</b>
<b>株主資本</b>	<b>89,328</b>	<b>82.3%</b>	<b>90,470</b>	<b>81.7%</b>	<b>1,142</b>
評価・換算差額等	▲857	▲0.8%	▲4	▲0.0%	853
<b>純資産合計</b>	<b>88,470</b>	<b>81.5%</b>	<b>90,466</b>	<b>81.7%</b>	<b>1,995</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>108,522</b>	<b>100.0%</b>	<b>110,669</b>	<b>100.0%</b>	<b>2,147</b>

## <当期のポイント>

### ■ 流動資産： 2,932百万円増

- ・現金及び預金の増加 (3,440百万円増)
- ・売掛金の減少 (3,572百万円減)
- ・有価証券の増加 (1,453百万円増)
- ・棚卸資産の増加 (1,447百万円増)

### ■ 固定資産： 785百万円減

- ・有形固定資産の減少 (316百万円減)
- ・無形固定資産の減少 (105百万円減)
- ・投資その他の減少 (363百万円減)

### ■ 流動負債： 165百万円増

- ・支払手形及び買掛金の増加 (200百万円増)
- ・その他流動負債の減少 (34百万円減)

### ■ 固定負債： 14百万円減

# 主な業績項目の推移: 杏林製薬

(単位:  
百万円)

	08年3月期 第2四半期	09年3月期 第2四半期	10年3月期 第2四半期	09年3月期	10年3月期 (予想)	10年3月期 (当初予想)
売上高 (輸出高)	34,171 (2,399)	34,425 (1,758)	39,545 (1,264)	77,962 (3,148)	85,100 (2,500)	81,700 (2,600)
売上原価 (売上原価率)%	11,522 (33.7%)	14,096 (40.9%)	13,183 (33.3%)	29,551 (37.9%)	—	—
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	19,571 (57.3%)	18,642 (54.2%)	21,603 (54.6%)	39,894 (51.2%)	—	—
うち研究開発費 (研究開発费率)%	5,155 (15.1%)	4,508 (13.1%)	5,388 (13.6%)	10,056 (12.9%)	11,700 (13.7%)	10,800 (13.2%)
営業利益 (営業利益率)%	3,076 (9.0%)	1,685 (4.9%)	4,757 (12.0%)	8,517 (10.9%)	11,800 (13.9%)	11,400 (14.0%)
経常利益 (経常利益率)%	3,323 (9.7%)	2,125 (6.2%)	5,669 (14.3%)	9,463 (12.1%)	13,300 (15.6%)	12,500 (15.3%)
四半期(当期)純利益 (四半期(当期)純利益率)%	1,733 (5.1%)	▲280 (▲0.8%)	3,816 (9.6%)	4,041 (5.2%)	8,600 (10.1%)	7,700 (9.4%)
一株当たり当期利益(円)	23.34円	▲3.78円	51.38円	54.42円		
資本金	4,317	4,317	4,317	4,317		
総資産	104,454	106,478	110,669	108,522		
純資産	86,141	85,356	90,466	88,470		
一株当たり純資産(円)	1,159.87円	1,149.31円	1,218.11円	1,191.24円		
自己資本利益率%	2.0%	▲0.3%	4.2%	4.6%		
自己資本比率%	82.5%	80.2%	81.7%	81.5%		
人員(人)	1,532人	1,567人	1,733人	1,716人		
設備投資	729	577	624	969	1,400	2,300
減価償却費	1,880	1,656	1,071	3,042	2,200	2,300

# 参考資料：株式会社キョーリン 個別業績と予想

単位：百万円

	2009年3月期 第2四半期 (実績)	2010年3月期 第2四半期 (実績)
営業収益	2,084	4,008
営業利益	923	2,787
経常利益	800	2,731
当期純利益	497	2,840

	2009年3月期 (実績)	2010年3月期 (修正予想)
	3,857	6,000
	1,411	3,500
	424	3,500
	150	2,900

2010年3月期 (当初予想)
6,100
3,600
3,600
3,500

# 参考資料：主な子会社の業績と予想

(単位:億円)

杏林製薬
売上高
営業利益
四半期(当期)純利益

09年3月期 第2四半期	10年3月期 第2四半期
344	395
17	48
▲3	38

09年3月期	10年3月期 (修正予想)
780	851
85	118
40	86

10年3月期 (当初予想)
817
114
77

キョーリン リメディオ
売上高
営業利益
四半期(当期)純利益

09年1月期 第2四半期	10年3月期 第2四半期
34	41
▲4	1
▲5	1

09年1月期	10年3月期*2 (修正予想)
74	102
▲4	3
▲6	2

10年3月期 (当初予想)
103
1
1

ドクタープログラム
売上高
営業利益
四半期(当期)純利益

09年1月期 第2四半期	10年3月期 第2四半期
19	16
▲1	▲2
▲1	▲2

09年3月期*1	10年3月期 (修正予想)
41	37
1	0
1	0

10年3月期 (当初予想)
38
1
1

※1:ドクタープログラムの2009年3月期業績は決算期変更に伴い、14ヶ月分を計上

※2:キョーリン リメディオの2010年3月期予想は決算期変更を予定しており、14ヶ月分を計上した業績を予想